

官庁街通りに「教育」のための新しい拠点が誕生

(仮称) 教育プラザ基本設計を公開

問企画調整課プラザ建設準備室 ☎⑤6712



「(仮称) 教育プラザ」は、現在の市民図書館と教育研修センターの機能を併せ持つ施設です。

図書館機能としては、子どもから高齢者まで広く市民が本に親しみ、また、人々が触れ合い、交流することで生まれる「本ではない本」など多くの情報を得られる場、教育研修センター機能としては、不登校や特別な支援が必要な子どもに対する教育支援や教師の研修として活用される場として役割を果たすものです。

「教育」のための新しい拠点として、多くの市民に親しまれる空間を目指し、市民図書館周辺に平成26年度完成予定で整備を進めています。

◀基本設計時に提出された模型写真

■ (仮称) 教育プラザ設計者



安藤忠雄建築研究所 Tadao Ando Architect & Associates

あんどう ただお
安藤 忠雄 さん

1941年大阪生まれ。独学で建築を学び、1969年安藤忠雄建築研究所設立。代表作に「光の教会」。79年「住吉の長屋」で日本建築学会賞をはじめ国内外で受賞多数。2010年文化勲章受章。97年から東京大学教授、現在名誉教授。

最近のプロジェクトは「秋田県立美術館」「ハンソルミュージアム」など。現在、「調布市駅前広場」「国際子ども図書館増築棟」「上海保利大劇場」などが進行中。

▶秋田県立美術館



今回「教育」のための施設的设计にあたり、中心機能である図書館の枠組みを拡げる事で、新しい提案ができないかと考えました。図書館に収蔵されてきた「本」とは、活字情報のことです。しかし教育にとって、は、活字にならない情報、いきいきとしたコミュニケーションもまた重要となります。

そこで、様々な人が出会い、対話によって伝わる情報を「本ではない本」と捉え、本を読むためだけでなく、時にはコミュニケーションを求めて人々が集まるような場所を、これからの図書館の姿として思い描きました。

具体的には、「本ではない本」が集まる庭として、冬でも暖かいサンルーム空間を提案しています。エントランスホール、閲覧コーナーなど、様々な機能を担うサンルームには、一年を通じて陽光が降り注ぎ、行き交う人々のいきいきとしたコミュニケーションを誘います。

この建築が、十和田の人々にとっての新しいよりどころとなる事を願っています。